

(4) 飼料要求率

飼料要求率については、試験2区と4区が2.62, 対照区2.68, 試験3区2.69, 試験1区2.73と、いずれの区も2.8以下の数値であってきわめてよい成績である。

4. 要 約

埼玉G, 山梨D, 徳島d, 福岡N系統雄と岩手A55系統雌との交配を行ない、組合せ能力の調査を実施し、次の結果を得た。

1. 育成率、生存率については各区ともほとんど差がなく良い成績であった。
2. 初産日齢では各試験区よりも対照区が早かった。
3. 卵重は対照区が良く、次いで試験4, 1, 3区で試験2区が小さかったが、改良目標からみれば各区とも高い卵重である。
4. 産卵状況については対照区が最も悪く、各試

験区ではいずれの区も70%以上の好成績で特に試験2, 3, 4区がよかった。

5. 体重については対照区, 試験2区が軽く, 試験4, 1, 3区と重くなっている。

6. 飼料要求率は各区とも2.8以下の好成績であった。

7. 初産日齢・卵重・体重については外国鶏がよく, 産卵, 飼料要求率については各試験鶏がよい成績であり, 総合的にみると, 福岡N, 山梨Dとの組合せは相性が良かったが, 山梨Dとの組合せは卵数質が悪いことから特に福岡Nとの組合せが良いと考える。

以上のように各試験区ともよい成績であるため選抜に際しては難しい問題も生じてくるが, 今後3・4元を作る場合には, 一応福岡Nとの組合せを考慮しながら進めてゆきたいと考えている。

本組合せ検定に当たり御協力と御指導をいただいた農林省畜産試験場および白河種畜牧場に対し深甚なる感謝の意を表する。

福島県における実用鶏作出のための ロードの利用について (第2報)

武藤 顕夫・斎藤 春郎・柿沼 成文

(福島県養鶏試)

1. 緒 言

当場のロードは、すべて旧農林省奥羽種畜牧場青森支場のパーメント系ロードで、その性能は優れているが、兼用種の特性として飼料要求率が白レグより高い欠点がある。この点の改善を図るとともにロードの特性を十分に利用するために、まず白レグとロードの一代雑種を作りその成績について、前回の当発表会において報告した。

今回は前回までに優良と認められた、当场保有の白レグH₂₃系×ロードP系に、大卵で飼料要求率の低い白レグの父方として、農林省白河種畜牧場の指導によって実施している鶏組合せ検定で、良い成績を上げている3系統を他県施設から導入し、3元交雑種を作り、

さらに飼料要求率を下げ経済性を高めうるかどうかを試験した。

2. 材料および方法

1. 供試材料

第1表のとおりである。

検定期間

前期(育成期)0~150日齢

後期(産卵期)151~500日齢の500日間

2. 育雛および収容方法、飼料、点灯、その他については前回と同様

第1表 供試材料

区	交配様式		餌付羽数	餌付時期	摘 要
	父 系	母 系			
1	Br	H ₂₃ × P	50	42年春季	Br = 白レグ, 卵重系, 東京畜試(B)
2	F	//	50	//	F = //, //, 福岡種鶏(N)
3	Ca	//	50	//	Ca = //, //, 栃木畜試(M)
参考 1	H ₂₃	P	50	41年春季	H ₂₃ = //, 卵数系, 福島鶏試(j)
参考 2	某 外	国 鶏	50	//	P = ロード, //, //

3. 検 定 結 果

第2表のとおりである。

第2表 500日検定成績

区	交配様式		育成率	生存率	50% 産卵日齢
	父 系	母 系			
1	Br	H ₂₃ × P	100%	90.0%	163
2	F	//	100	94.0	167
3	Ca	//	100	94.0	169
参考 1	H ₂₃	P	98	95.9	153
参考 2	某 外	国 鶏	100	96.0	170

区	10ヵ月齢時		平均産卵個数	産卵率	飼 料 要 求 率	1羽当り 粗 収 益	備 考
	体 重	卵 重					
1	2171 ± 248 ^g	62.2 ± 4.6 ^g	230.0 ± 63.2 ^個	68.5%	3.16	738 ^円	
2	1947 ± 199	61.0 ± 3.9	262.5 ± 53.9	76.2	2.79	1,058	
3	2107 ± 244	58.2 ± 3.8	254.0 ± 55.1	73.3	3.03	843	
参考 1	2237 ± 234	56.3 ± 3.1	259.5 ± 60.5	75.1	2.95	861	
参考 2	1727 ± 219	59.9 ± 4.2	213.3 ± 62.7	62.6	2.92	675	

注.

育成率 = (150日齢羽数 / 餌付羽数) × 100

生存率 = (500日齢羽数 / 151日齢羽数) × 100

50%産卵日齢 = 群の産卵が50%に達した日齢

10ヵ月齢時卵重 = 299 ~ 301日齢の3日間の
産卵重量 / その時の産卵個数

10ヵ月時体重 = 300日齢時の体重

平均産卵個数

= 151 ~ 500日の総産卵個数 / 151日齢羽
数

産卵率 = (151 ~ 500日齢までの総産卵個数 /

その時の延生存羽数) × 100

飼料要求率 = 151 ~ 500日間の飼料消費量 / そ
の時の生産卵量

1羽当り粗収益 = (鶏卵代 + 廃鶏代) - (ひな代 +
飼料代)

3. 考 察

1. 強健性をみると育成率は各区とも100%で非
常に良く、生存率は2, 3区94%, 1区90%で良
く、また特定の疾病の発生は見られない。有意性検定
では各區間に差は認められない(5%水準, 以下同じ)。

2. 体重については10カ月齢で見ると、参1区の母鶏に比してかなり小さく、特に2区は1.947gと2Kg以下となったことは、飼料要求率を引き下げることにかんがりの影響があったものと考えられる。

有意性検定； 2 3 1

3. 性成熟について50%産卵日齢で見ると、各区とも170日齢未満で適当な性成熟であると考えられる。

有意性検定； 1 2 3

4. 産卵性は各区とも良い性能を示したが、特に2区は平均産卵個数262.5個、産卵率76.2%と高く群のバラツキも少ない。厳寒期の産卵低下も認められない。

有意性検定； 1 3 2 (平均産卵数)

産卵率については有意差は認められない。

5. 卵重については10カ月齢で見ると、1区が62.2gで最も重く、また2区、3区それぞれ61.0g、58.2gとかなり重い。母鶏の56.3gと比してかなり改善されたものと認められる。

有意性 1, 2, 3区間に有意差あり。

6. 飼料要求率は2区が2.79で非常に良く、このことは多産と体重の軽減がもたらしたものと考えられる。また各区とも1日1羽当り生産卵量が40g以上で、かなり良い性能である。

7. 経済収支をみると1羽当り粗収益で見て2区が1,058円と多く、ほかも738円、843円と良い経済性を示した。

同年の経済検定に出品された一流外国鶏と比較しても、2区は最高を示した。

第3表 2区と同年経済検定に出品された外国鶏の成績(42年度, 470日検定)

鶏 種	餌付羽数に対する生存率	50%産卵日齢	産卵率	平均産卵個数	飼料要求率	1日1羽当り		10カ月齢		粗収益	備 考
						生産卵量	飼料消費量	卵 重	体 重		
2 区	%		%	個		g	g	g	g	円	
	96	167	77.7	245.7	2.79	45.4	127.0	61.0	1,947	989	
外国鶏 A	86	166	69.1	215.6	2.75	41.8	115.0	61.5	1,897	728	
〃 B	92	159	77.2	239.2	2.67	45.2	121.0	59.6	1,830	907	
〃 C	94	167	65.6	204.5	3.00	38.3	115.0	59.0	1,796	616	

4. 要 約

最近の多数羽養鶏に適する実用採卵鶏作出のため、昭和39年度より本試験を実施してきたが、さらに性能の向上を図るため、前回までに優良と認められた、白レグH₂₃系×ロードP系に、大卵で飼料要求率の低い白レグ3系統を選定し、3元交雑種を作りその成績を検討した。

その結果、特に福岡のFとの組合せはもっとも優れ、主要経済形質はバランスがとれており、現場検定等の成績からも、実用採卵鶏として十分使用可能と判断で

きる。これを「福島クロスP」と呼ぶこととし、今春から種鶏を配付し、明春からこの組合せによる採卵鶏を、養鶏農家に普及させることになった。

また、さらに能力の向上を図るため、4元交雑種を作り検定を実施中である。

参 考 文 献

- 1) 鶏の組合せ検定試験第1号 福島県鶏試
- 2) 〃 第2号 〃
- 3) 第2回福島県鶏の経済能力検定成績報告書